

平成 28 年度 国際関係論専攻 調査研究助成金（春学期申請分）

調査・研究報告書

受給者：B1566835 葉山 亜美

所属：上智大学グローバルスタディーズ研究科国際関係論専攻博士前期課程

研究課題：国境を越えた移動と人間関係の構築—濟州島海女の対馬への出稼ぎを事例に—

調査背景

申請者はこれまで、韓国から来た海女たちと日本人海女間にどのような交流があったのかを探ることを目的に、①2015年9月に三重県の鳥羽市と②2016年3月に長崎県対馬市にてフィールド調査を行ってきた。①の調査では、海女と海女文化保護活動関係者へのインタビュー調査、海女に関連する施設や神社、並びに漁港を調査することであった。本調査を通じて、海女の出稼ぎに関する多くの情報を得ることができた。あわせて、鳥羽市の調査では他の「国家」の海女の出稼ぎ先として、「外国人」を受け入れていた場所が、対馬であることを捉えた。②の調査では、対馬の海女と対馬・韓国交流事業の推進者へのインタビュー調査、及び資料館の見学や韓国からの観光客に同行し、対馬の主な観光スポットを観察し、データを収集してきた。このように海女文化だけではなく、対馬・韓国の関係を捉えるために、それにも焦点を当てた調査であった。

対馬と韓国の関係に焦点を当てた調査を行ったにもかかわらず、再度海女文化を事例として選んだ背景には、海女は国家代表でもないし、国家の何がしかを体現しているわけではないことがある。近代に入り、国際関係は、いわゆる「近代国家」の諸特徴を前提として成立した。しかし、20世紀にはいり、第一次大戦、第二次大戦さらには冷戦時代という、近代国家の頂点の時代に、海に潜るだけの生活者である海女が、それぞれ異なる国から、国境意識の希薄な場所で交流することの意味は、考えなければならぬと考えられるようになった。以上のように本研究は対馬における韓国人海女と日本人海女の交流の軌跡を紐解くものである。

研究目的

この研究が貢献することは、国家間関係に囚われない、濟州島海女の移動や対馬での日韓海女の関係性を描き出すことである。「どのような要因により濟州島海女は日本へ出稼ぎに行ったのか。また、出稼ぎ先でどのような人間関係を築いたのか。」という問いのもと。海女という文化そして生業を通じた日本人と韓国人の関わりを探ることで、日常レベルの人の交流を描き出すことを目的とする。

調査日程・方法・内容

① 調査日程：10月17日～10月21日

10月17日：移動、曲の海女インタビュー、水産加工会社社長インタビュー

10月18日：対馬市役所文化財課訪問、漁協関係者インタビュー

10月19日：済州島出身海女インタビュー

10月20日：データ整理、文字起こし

10月21日：移動

② 方法・内容

海女さんや漁協関係者など、済州島出身海女の出稼ぎ期の状況を知りうる人に対しインタビュー調査を実施。インタビュー時間は特に設けておらず、いずれも2時間以上と長い時間ご協力していただいた。海女さんに対する質問内容は海女になった経緯や出稼ぎの経験や海女の人間関係、海女文化の現状などである。一方海女以外の調査対象には、済州島海女の出稼ぎの様子や海女漁をどのように行っていたのかについてお話を伺った。今回調査を行うにあたり、常にコーディネーターの方に引率していただいた。

調査・研究報告

本調査は修士論文執筆前、対馬へ行く最後の機会であったため、筆者にとって最も必要なものであった。最後の現地調査にもかかわらず、対馬に済州島より出稼ぎに来ていた海女は一人しか残ってなく、加えて出稼ぎが盛んに行われていた当時の様子を知る人もあまりいなく、調査対象探しは難航した。それ故、今回インタビューに応じてくださった皆様のお話はどれも筆者にとってとても有益なデータとなった。

対馬での調査の成果は2点挙げられる。第1に済州島出身海女へのインタビューを実施できたことだ。先に述べたように、現在対馬にいる済州島出身海女は一人しかいない。本調査では、その方にお話を伺えた。インタビューとしての成果は、①なぜ対馬に来たのか経緯を聞くことができたこと、②当時の海女漁の様子を知ることができたこと、③済州島海女さんがどのような人間関係を築いていたのか聞くことができたこと、以上である。これらは先行研究として扱った李(2000)による、済州島海女の対馬への出稼ぎを扱った研究にも述べられていないことが多く、本研究を行う上で、最も重要な知見を得ることができた。

第2に対馬海女と済州島海女の関係に関する以下の情報を得られたことだ。一つ目に、日韓海女の日常の接点はあまりなく、両者の関係は希薄であったことが挙げられる。対馬で伝統的に海女漁を行う海女と済州島より出稼ぎに来ている海女は海女漁の行い方にイガイがあり、漁場も異なることから、交流を持たなかったようだ。二つ目に、日韓海女の関係は、必ずしも対立関係にあったとはいえないことだ。これは先行研究で得た知見とはまるで異なる。本調査でわかったことは、対立が起きないように海女に介入する漁協があり、そもそも先に述べたように両者の関係性が希薄であったことが理由として考えられる。

この他にも調査によって重要な情報を得ることができ、これらをもとに修士論文の執筆に励みたいと思う。